

令和2年度 自己評価・学校関係者評価

令和3年3月18日  
オイスカ高等学校

校訓	教育目標	教育方針
・畏敬 ・知性 ・奉仕	自然の恩恵に感謝し、国際社会に貢献できる心豊かな生徒を育成する。	生徒の誰もが「入学してよかった」と満足する学校 ～一人一人の夢の実現をサポートできる学校～ ※面倒見の良さを徹底し、進学・就職の充実を目指す

評価は、A（十分に成果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）で示す。

評価対象 (担当)	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価	学校としての反省と改善策	評価	意見
学校経営 (管理職)	教職員に教育方針を明確に示し、その実践に向けて、教職員が一丸となって取り組む環境を作る。	副校長を統括責任者とした4つのプロジェクトチームを立ち上げ、チーム長を中心に話し合いの場を設け、目標を達成する。	A	全プロジェクトが定期的に会議を開催し、その内容を教職員・生徒・地域に発信することができた。いかに継続するかが大切。	A	学校の教育方針が伝わるような掲示物が増えた。上手に発信していると思う。
教育課程 (教務)	令和4年度から新学習指導要領開始に向けて教育課程を作成する。	教科主任会議で7月までに原案を作成する。県教育委員会の教育課程説明会に出席し、再確認する。3コースの特色を出す。	A	教科主任会議でコースの特色が出るように新教育課程の検討を重ねた。県教育委員会の説明会にも参加し、再確認を終えた。	A	入学してよかったと思える教育課程を作成して欲しい。
教科指導 (教務)	入学時より2ランクアップを目指し、細かな学習指導を徹底する。	特別講習(月曜・放課後・夏季)の実施と通常授業時の習熟度別授業展開により、目標を達成する。	A	コロナ禍で遅れた授業進度を長期休暇の削減で授業時間を確保すると共にオンライン授業で補った。特別講習も夏季の後期を除き計画通り実施できた。	A	コロナ禍での学習を補うためにオンライン等をいち早く導入したことは高く評価できる。
進路指導 (進路)	自らの将来像と明確な進路目標を定めさせる。かつ、そのための学力・技能を身に付けさせる指導を行う。	進路希望調査に基づき、生徒との個別面談を実施する。最新情報を提供する。課外補習を実施する。	A	夏課外以外は予定どおり実施できた。一人一人の面談の時間を増やせるよう工夫し、180通りの進路指導を実現したい。	A	進路研修会を定期的に開催し、その情報を基に適切な進路指導が行われていた。
生徒指導 (生徒)	基本的生活習慣をもとに、「元気な挨拶」「時間厳守」「機敏な行動」ができるようにする。	挨拶については、生徒によって差があるが、目上の人に対しては立ち止まりと会釈を習慣づけさせたい。学年部の協力を得る。	B	大人しい生徒が多くこちらから声をかけないと挨拶ができない者がいる。運動部は良好なのだが、全校生徒に浸透させたい。	B	校外ではしっかりした挨拶ができていた。
部活動指導 (生徒)	顧問の熱意を生徒に伝え、ともに成長していける環境と3年間継続できる指導体制を作る。	高校時代の部活動は今後の成長過程において大きな意義があるので、3年間継続の必要性と人間関係の構築を顧問が指導する。	B	各部活動においては運動部を中心に活発に活動をしている。ただ、文化部所属生徒の4割については、目標を持つことが必要である。	B	制約が多い一年であったが、生徒の安全に気を付けて指導が行われていた。
健康管理 (生徒)	生徒の自ら健康になるようとする意識を高め、生徒の健康の保持増進を図る。	感染症予防をしながら他人への配慮の必要性も考えさせ、自分自身や周りの人に対する健康についての意識を高めさせる。	A	感染予防に関してマスクの着用率は上がっているが、食事前や日頃の手洗いやうがいをするものも多い。継続した指導が必要である。	A	徹底した健康管理ができていた。生徒の自覚が高まるとなおい。
寮生指導 (寮務)	安心・安全で規則正しい寮生活が送れるよう満足度アンケートの結果を参考に現状の生活様式を振り返る。	寮生活のルールを変更することで満足度の向上に繋げていく。様々な生活場面で正しい状況判断が出来るよう指導していく。	A	生活上のルール変更とコロナ対策に注意と工夫をした。寮行事が全て中止になったことは残念だが、今後も感染者を出さない指導をしていきたい。	A	寮の安全管理が徹底していたのでコロナ、インフルエンザの感染者が全くでなかったのはよかった。
留学生指導 (留学生)	日本語の学力を付ける。その指標としてより高い日本語能力資格の取得を目指す。校内での日本人との交流を深める。	授業及び日本語能力試験問題集を活用し、日本語能力を高める。日本人生徒との交流を深めるために母国紹介の場を設ける。	A	入国できない新入留学生への日本語指導をオンラインで実施した。また、入国後、日本語能力試験前には補習授業を実施した。継続した指導が必要である。	A	昼食のメニューにベトナム料理や韓国料理を加え、食の面での国際理解も深めることができたのはよかった。
広報 (広報)	本校への中学校教諭及び中学生・保護者の関心を高め、入学生徒数の増加を実現する。	不登校・外国籍の入学生徒に対する校内初期対応策を研究する。あらゆる機会を用いて本校の長所をPRしていく。	A	昨年度比1.5倍を目標に生徒募集を進めてきたが、目標達成まではいたらなかった。オープンスクールの参加者については目標を達成することができた。	A	昨年に比べ受験者が70～80名増えたのは中学生やその保護者に学校の内容を知ってもらえたからではないかと思う。
企画・研修 (企画研修)	教育方針具現化に向け、評価・分析を通して、取組の改善をする。授業改善を主とした校内研修を企画・運営する。	定期的な評価・分析を通して、年度内でも可能な改善に取り組む。教科、学年集団等で情報共有しながら、授業力の向上につなげる。	A	「自己向上シート」等を用いて評価・分析し、学校全体の課題は共有化できた。言語活動を取り入れた授業改善も進んできた。	A	教員の指導力向上のための研修が巧みに行われ成果がでてきたのではないかと思う。
防災 (総務)	大規模地震等に対する防災能力の向上を図るため、実践的な防災訓練を実施する。	訓練と共に避難経路を校内掲示により周知する。また職員AED講習を年1回実施する。	A	AED講習が消防署の都合で開催できず残念であった。その他は予定通り実施できた。万が一の備えをより万全にしたい。	A	生徒の安全確保のための研修を年度当初に実施して欲しい。AED講習もぜひ実施してほしい。
事務 (事務)	School Complianceに基づいた適切な運営を行うと共に、生徒及び来校者に親切・丁寧な対応を行い教職員が働きやすい環境を作る。	定められた手続きに準拠し、適切な事務が執行されるように事務部を運営すると共に、生徒及び来訪者に親切・丁寧な対応を行う。	B	県や私学協会又は外部から要求されたデータ・書類等、適切に対応した。訪問者へは親切・丁寧を心掛け対応した。	A	来校するたびに丁寧な対応をしていただき、恐縮しています。

課題・検討事項

面倒見の良さにさらに磨きを掛け、生徒の「満足度・充実度・幸福度No.1」を追求する。スクール・ミッションを再確認し、全教職員が共有化できるグレンジュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定し、実践する。「オイスカSDGs宣言！ ミニ・ワールド宣言！ 地域協同宣言！」を常に意識し教育活動を行う。このような本校の活動をあらゆる手段を用いて情報発信する。